

平成27年度

市民開放授業 受講生募集要項

～学生と共に学ぶ～

東日本国際大学

(経済情報学部・福祉環境学部)

東日本国際大学経済情報学部・福祉環境学部では、学部の開設科目を開放し、学生と共に受講する市民の皆様を募集いたします。

本学の「市民開放授業」は、大学開放活動の一環として市民の皆様にご覧に学部の開設科目を開放することで、生涯学習に対する社会的要請にこたえるとともに、地域社会と大学の連携を一層深めることを目的としております。

受講料は無料です。(ただし、科目によってはテキスト代等の教材費をご負担していただく場合があります。)

受講にあたっては、別紙の東日本国際大学「市民開放授業」受講希望申込書により申込みをしていただき、受講生として登録をしてください。

(科目の定員により受講が出来ない場合もあります。)

※電算機使用科目は、電算機使用料を徴収する場合があります。

目 次

I	実施要領	p.2
II	受講手続き	p.2~3
III	受講に際して	p.3
IV	経済情報学部	p.4
	経済情報学部「市民開放授業」科目一覧	p.5
	経済情報学部シラバス(授業内容の概要)	p.6~30
V	福祉環境学部	p.32
	福祉環境学部「市民開放授業」科目一覧	p.33
	福祉環境学部シラバス(授業内容の概要)	p.34~44

I 実施要項

(募集定員・条件)

- 1 本学で開放する科目の定員は、「市民開放授業科目一覧」(p.5・p.33)に記載のとおりです。なお、募集定員を超えた場合は受講できないことがあります。

※受講できる科目数は、一人3科目までです。

(開講期間・授業時間)

- 2 開講期間は、次のとおりです。

春学期 平成27年 4月 6日(月)～平成27年 7月 27日(月)

秋学期 平成27年 9月 24日(木)～平成28年 2月 1日(月)

授業時間は、次のとおりです。

1時限 8:50 ～ 10:20

2時限 10:30 ～ 12:00

3時限 12:50 ～ 14:20

4時限 14:30 ～ 16:00

5時限 16:10 ～ 17:40

(開放科目授業概要)

- 3 開放する科目の授業概要につきましては、シラバス(授業内容の概要) 経済情報学部 p.4～p.30 及び福祉環境学部 p.32～p.44 を参考にしてください。

II 受講手続

(受講申込)

- 1 受講を希望する場合は、受講申込(別紙:東日本国際大学「市民開放授業」受講希望申込書)を受講生窓口(東日本国際大学学生支援センター)に提出してください。郵送でも受付いたします。

(受講申込期間)

- 2 受講申込期間は、平成27年4月1日(水)から平成27年5月9日(土)までとします。
- 3 申込期間を過ぎても募集定員に空きがある場合は、受講を認める場合もあります。窓口にご相談ください。

(受講の可否)

- 4 受講の可否については、電話にて連絡いたします。
- 5 募集定員等の関係から、場合によってはこちらで抽選させていただくことがあります。

(受講科目の登録)

6 受講許可の連絡を受けた希望者は、「市民開放授業受講届」を窓口で受け取り、授業科目名等を記入して、授業担当教員に提示してください。担当教員の確認サインを受けて窓口へ提出し、受講科目の登録をしてください。

7 受講科目の登録に必要な書類等は次のとおりです。

- ① 「市民開放授業受講届」
- ② 写真（3 cm×4 cm：6ヶ月以内に撮影されたもの）1枚
- ③ 運転免許証又は保険証等の身分を証明できる書類等

(受講証の交付)

8 受講科目の登録をされた方には受講証を交付します。

(費用等について)

9 受講料は無料です。ただし、授業で使用するテキスト等にかかる費用は、個人負担となります。

※電算機使用科目は、電算機使用料を徴収する場合があります。

10 「市民開放授業」の受講生には、単位認定を行いませんので、あらかじめご了承ください。

(施設等の利用)

11 受講生は、図書館等本学の施設を利用することができます。

Ⅲ 受講に際して

(受講生の呼び出し等)

1 授業中その他受講生の呼び出しには対応できかねますので、あらかじめご了承ください。また、授業中は、携帯電話の電源をお切りください。

(休講の通知等)

2 休講については、学生支援センター前掲示板に掲示しますので、ご注意ください。

(受講生の窓口・お問い合わせ先)

3 受講生の窓口・お問い合わせ先は、次のとおりです。

東日本国際大学 学生支援センター

〒970-8023

いわき市平鎌田字寿金沢37

TEL0246-35-0405 Fax0246-35-0406

事務取扱時間：

月曜日～金曜日 8:30～16:30 土曜日 8:30～13:00

IV 經濟情報学部

IV 経済情報学部「市民開放授業」科目一覧

No.	授 業 科 目 名	担当教員名	定員	開講期・曜日・時限
1	平和経済A	皆川 國生	15名	春学期・火曜4限
2	平和経済B	皆川 國生	15名	秋学期・火曜4限
3	中国語 I A	戸田 聖子	15名	春学期・火曜2限 木曜2限 (火・木どちらかを選択)
4	中国語 I B	戸田 聖子	15名	秋学期・火曜2限 木曜2限 (火・木どちらかを選択)
5	韓国語 I A	山田 紀浩	15名	春学期・火曜2限 木曜2限 (火・木どちらかを選択)
6	韓国語 I B	山田 紀浩	15名	秋学期・火曜2限 木曜2限 (火・木どちらかを選択)
7	経営情報	三重野 徹	15名	秋学期・金曜1限
8	経営史	皆川 國生	15名	秋学期・火曜2限
9	情報メディア	福迫 昌之	15名	秋学期・月曜3限
10	情報社会と倫理	福迫 昌之	15名	春学期・月曜5限
11	復興学	福迫 昌之 他4名によるオム ニバス形式	15名	秋学期・水曜4限
12	人間力の育成	先崎 彰容	15名	秋学期・水曜3限

経 済 情 報 学 部

シラバス（科目概要）

科目名		テーマ		
平和経済 A		政治経済学における戦争と平和の問題		
担当者名	配当年次	単位数	学科	選択・必修 / 指定科目
皆川 國生			経済情報学科	

[授業の内容・到達目標]

「経世済民」の学としての政治経済学において戦争と平和の問題はどのように取り扱われるべきか——こういう問題意識の下に、17世紀前半のヨーロッパ三十年戦争とその講和としてのウェストファリア条約を契機に成立する「主権国家」体制の特徴を踏まえ、それ以降、20世紀に至る世界と日本の戦争（因果連関・影響）と平和の諸条件を考えます。

17世紀前半、ヨーロッパでは戦争の悲惨の末に平和を回復し、「主権国家」体制が成立した。同じ時期、日本は「鎖国」体制を固め、世界にまれな長期の平和の時代（「パクス・トクガワーナ」）を現出させた。この発足上の違いがその後どのような要因・条件の作用によって両者の接触（ウェスタン・インパクト）を引き起こし、ついには、一方における「ヨーロッパ合衆国」（EU）の成立、他方における「戦争放棄と戦力不保持」を宣言して経済成長を実現というコントラストをもたらすことになったのか？日本に焦点を合わせながらこの問題を考え、世界と日本の「平和の経済的帰結」の理解につとめます。

[授業方法]

講義を基本としますが、必要に応じて受講生の皆さんに意見を述べてもらう時間を設け、フリートーキングを試みます。その際、皆さんの歴史観を支えている史実認識や「常識」が問われることもあります。下に掲げた参考文献から1冊選んで読みすすめてください。また、近代世界史あるいは日本近代史について、高校教科書などで自己の記憶を呼び起こす・確かめるなどしておいて下さい。

[テキスト]

適宜資料を配布します。

[参考文献]

島恭彦『軍事費』岩波新書、1966年。高沢紀恵『主権国家体制の成立』山川出版社、1997年。猪口邦子『戦争と平和』東大出版会、1989年。山本吉宣・田中明彦編『戦争と国際システム』東大出版会、1992年。ポール・ボースト『戦争の経済学』バジリコ、2007年。黒野耐『「戦争学」概論』講談社現代新書、2005年。加藤陽子『それでも日本は「戦争」を選んだ』朝日出版社、2009年。

[関連科目(※1) ・ 履修上の注意 ・ その他]

※1=つながりのある科目

〔関連科目〕 平和経済 B
 〔履修上の注意〕
 〔その他〕 テーマに関わるどんな質問・意見でも歓迎します。来たれ、研究室へ！

[授 業 計 画]

実施回	内 容
1	政治経済学は戦争と平和の問題にどのように関係するか?—ガイダンス
2	主権国家体制とは何か—三十年戦争・ウェストファリア条約
3	パクス・トクガワーナ—徳川支配の下での平和・なぜ可能であったか?
4	ウェスタンインパクト—ペリーはなぜ日本に来たか?
5	不平等条約体制—「自由貿易帝国主義」とアジア
6	戦争国家の構築—富国強兵・殖産興業・立憲制
7	日清・日露戦争—日本の「脱亜入欧」
8	日清・日露戦争 (つづき)
9	総力戦と国家総動員—第一次世界大戦の衝撃
10	戦間期の政治と経済—国際連盟・軍備制限・賠償・再建金本位制・世界恐慌・ブロック経済
11	戦間期の政治と経済 (つづき)
12	第二次世界大戦
13	第二次世界大戦 (つづき)
14	パクス・アメリカーナ—「社会主義」と冷戦
15	まとめ—現代世界と平和経済構想

科目名		テーマ		
平和経済 B		グローバル社会における平和秩序阻害要因と平和維持活動の具体的研究		
担当者名			学科	
皆川 國生			経済情報学科	

[授業の内容・到達目標]

平和経済は本学の建学の精神を具体化する科目として位置づけられ、講義されてきている。講義の目標は学際的な平和学を総合的な講座として演出し、平和学の全体図をデザインする。第一は平和秩序阻害要因として、①民族紛争を考え、②多国籍企業・南北問題について検討する。また、③技術の二面性（平和・戦争利用）、及び情報化と国際技術について、さらに④地球環境問題及び軍事技術の開発と核・化学・生物兵器等。第二は平和維持活動の視点から⑤外交と安全保障、軍縮の歴史、NGOの活動等、最後にグローバリゼーションと国際平和で総括する。

目標としては、平和経済は学際的な内容である事、まだ世界には飢餓のように平和ならざる（peacelessness）状態が存在する事、科学技術は使い方によって、平和利用にも戦争・破壊によって人類滅亡の危機をも産み出していく事、等を理解する。さらに、平和維持活動のためには多大な努力を続けてきている、国連や各国の努力、NGOの活動についても理解し、「経世済民」思想を根底において、平和のために私たちに何ができるのかを考えて欲しいと思っている。

[授業方法]

授業への準備として：

- * 授業では多くの本や論文等を紹介するので、前もって図書館やネットで調べる課題があります。
- * 毎回授業の始めに前回の内容についてチェックをするのでプリント等を復習しておく事。なお、授業において必ず意見を求め、発言してもらい、時々小テストを実施します。

[テキスト]

* 固定したテキストは使用しないが、授業中に随時紹介していきます。なお、プリントを配布します。

[参考文献]

①岡本三夫他編『平和学の現在』法律文化社 1999、②戸田清『環境学と平和学』新泉社 2003、③吉田康彦編『21世紀の平和学：人文・社会・自然科学・文学からのアプローチ』明石書店、2004、④日本平和学会設立 30周年を記念して出版された『グローバル時代の平和学』全4巻、法律文化社 2004、⑤星野昭吉『グローバル社会の平和学』同文館出版、2005、等々。

[関連科目(※1) ・ 履修上の注意 ・ その他]

※1=つながりのある科目

[関連科目] 平和経済 A

[履修上の注意]

[その他] 質問のある学生は気軽に研究室を訪ねてください。
オフィスアワーは研究室の前に掲示してあります。

[授 業 計 画]

実施回	内 容
1	序説 平和学のデザイン ～ 歴史的な脈からみた平和論、国際平和秩序の阻害要因と平和維持のための制度・政策の大綱～
2	1. 平和秩序の阻害要因 ① 民族問題とはなにか
3	② 南北問題・多国籍企業
4	③ グローバリゼーションと国際秩序 I
5	④ グローバリゼーションと国際秩序 II
6	⑤ 社会変動と技術 I
7	⑥ 社会変動と技術 II
8	⑦ 地球環境問題と国際関係
9	⑧ 軍事技術の開発と核・化学・生物兵器
10	II. 国家安全保障・平和システム維持のため個別的な制度・政策論 ① 環境関連の国際機関の展開とその活動（持続可能な発展を求めて）
11	② 外交と安全保障
12	③ 軍縮の歴史と要件
13	④ 国際組織
14	⑤ 文化交流・NGO 運動
15	まとめ：グローバリゼーションと国際平和について

科目名		テーマ		
中国語 I A		入門中国語：中国語の発音と基礎を身につける		
担当者名		学科		
戸田 聖子		経済情報学科		

[授業の内容・到達目標]

今は行こうと思えば誰でも簡単に外国に行くことができる時代です。休暇中、気の合う友達と一緒に出かけるのもいいし、気楽な一人旅もいいと思います。そんな時、ひとことでもふたことでもその国のことばを話すことができ、それによってその国の人と気持ちを通じ合わせることできたなら、旅行の楽しさはいちだんと増すことでしょう。そして、「ふたことみこと」が通じたら、さらにもっと内容のあることばを通じさせたい！と思うようになるに違いありません。もちろん、その国のことももっと知りたいと思うようになります。

ひとつの外国語を学ぶことは、新しい世界への扉をひとつ開けることです。

この科目では、初級レベルの中国語を学びます。まず、中国語がどのようなことばであるかある程度把握した上で、中国語の正しい発音やアクセント、リズムを身につけ、中国語の発音表記（ピンイン）に慣れるための練習を重ねます。半年でピンインを支障なく読めるようにし、基礎的な文法事項をマスターし、ごく簡単な会話表現をこなせるようにすることを目的としています。

また、中国語を学ぶと同時に、そのことばが使われている場所である中国という国について、そしてそれを話して暮らしている中国人という人々についても、幅広く興味を持ってもらいたいと思いますので、中国事情など、折に触れて紹介していくことになります。

[授業方法]

発音など、ひとりひとりの受講生に対する個別の指導に極力重きをおいて授業を進めていきます。まずは発音を身につけることが大事となるので、見当違いの羞恥心などを教室に持ち込むことはやめて、積極的に大きな声で練習するように努めてください。そうすれば、おのずと上達することは間違いありません。

また、語学習得の早道は音読を繰り返すことと短文の暗記です。授業で出てきた単語や文章は、次の授業までにしっかりと頭に入れ、いつでも口をついて出てくるようにしなければなりません。帰宅後、教科書に付属するCDをよく聴きながら、復習をきちんと行なった上で、次の授業に臨んでください。

[テキスト]

《最新版》『中国語はじめの一步』CD付き
(竹島金吾監修 2005年)

[参考文献]

『はじめての中国語「超」入門』(相原茂 ソフトバンク新書)
『はじめての中国語』(相原茂 講談社現代新書)
『中国語のすすめ』(鐘ヶ江信光 講談社新書)

[関連科目※1) ・履修上の注意 ・その他]

※1=つながりのある科目

[関連科目] 中国語 I B ・ 中国語 II A ・ B

[履修上の注意]

[その他] 積極的な授業参加を期待します。どんどん質問してください。

[授 業 計 画]

実 施 回	内 容
1	学習上の留意点・中国の概況
2	中国語の概略と特徴の説明
3	発音の基礎
4	発音の基礎
5	発音の基礎
6	発音の基礎
7	発音の基礎・あいさつ
8	発音の基礎・あいさつ
9	発音の基礎・あいさつ
10	「あなたは中国人ですか？」－人称代名詞
11	「あなたは中国人ですか？」－「是」の文
12	「これは何ですか？」－指示代名詞 (1)
13	「これは何ですか？」－疑問視疑問文
14	「これは何ですか？」－「的」の用法
15	「これは何ですか？」－副詞
16	「どちらへ行かれますか？」－動詞の文
17	「どちらへ行かれますか？」－「所有」を表わす「有」
18	「どちらへ行かれますか？」－省略疑問文
19	「このバッグはいくらですか？」－助数詞
20	「このバッグはいくらですか？」－指示代名詞 (2)
21	「このバッグはいくらですか？」－形容詞の文
22	「このバッグはいくらですか？」－「幾」と「多少」
23	「ご飯食べました？」－「完了」を表わす「了」
24	「ご飯食べました？」－「所在」を表わす「在」
25	「ご飯食べました？」－助動詞 (1)
26	「何人家族ですか？」－介詞 (1)
27	「何人家族ですか？」－「存在」を表す「有」
28	「何人家族ですか？」－反復疑問文
29	まとめと復習
30	まとめと復習

科目名		テーマ		
中国語 I B		初級中国語：中国語の発音を定着させ、基礎をマスターする		
担当者名		学科		
戸田 聖子		経済情報学科		

[授業の内容・到達目標]

この科目は、春学期半年間、中国語 I Aにおいて中国語の入門の学習を終えた学生のためのものです。引き続き初級レベルの中国語を学んでいきます。まず春学期で学んだ中国語の発音をしっかりと定着させ、自信を持って中国語の発音ができるよう、さらに練習を重ねていきます。

この科目では、あいさつや短い会話をこなし、簡単な自己紹介などができるだけのコミュニケーション能力を身につけることを目標として授業を進めます。そのためには、基本的な文法事項をしっかりと身につけ、耳で聞いて分かり、自分でも正しく発音できる単語の数を増やしていく必要があります。

「聴く・話す・読む・書く」のバランスのとれた中国語の行使能力を身につけるためには、とても大事な土台づくりの時期ですので、しっかり学んでください。

簡単な日常会話を学ぶと同時に、中国の悠久の歴史や文化、現代事情、そして日本とのかかわりなどについても、春学期に引き続き、幅広い情報の提供を行っていきます。

[授業方法]

春学期（中国語 I A）と同様、発音やアクセントなど、ひとりひとりの受講生に対する個別の指導に極力重きをおいて授業を進めていきます。積極的に大きな声で練習するように努めてください。

また、語学習得の早道は音読を繰り返すことと短文の暗記です。授業で出てきた単語や文章は、次の授業までにしっかりと頭に入れ、いつでも口をついて出てくるようにしなければなりません。帰宅後、教科書に付属するCDをよく聴きながら、復習をきちんと行なった上で、次の授業に臨んでください。

[テキスト]

《最新版》『中国語はじめの一步』CD付き
(竹島金吾監修 2005年)

[参考文献]

『はじめての中国語「超」入門』(相原茂 ソフトバンク新書)
『はじめての中国語』(相原茂 講談社現代新書)
『中国語のすすめ』(鐘ヶ江信光 講談社新書)

[関連科目(※1) ・ 履修上の注意 ・ その他]

※1=つながりのある科目

[関連科目] 中国語 I A・中国語 II A・B

[履修上の注意]

[その他] 積極的な授業参加を期待します。どんどん質問してください。

[授 業 計 画]

実施回	内 容
1	発音と文法の基礎の復習
2	発音と文法の基礎の復習
3	「バイトは何時からですか？」－「時間量」を表わす語
4	「バイトは何時からですか？」－助動詞 (2)
5	「バイトは何時からですか？」－介詞 (2)
6	「アメリカに行ったことがありますか？」－「過去の経験」
7	「アメリカに行ったことがありますか？」－「是～的」の文
8	「アメリカに行ったことがありますか？」－介詞 (3)
9	「歌を歌えますか？」－助動詞 (3)
10	「歌を歌えますか？」－「動作の様態」を言う表現
11	「歌を歌えますか？」－動詞の重ね型
12	「何をしていますか？」－「動作の進行」
13	「何をしていますか？」－「～しに来る・～しに行く」の表わし方
14	「何をしていますか？」－選択疑問文
15	「何をしていますか？」－目的語を文頭に出す表現
16	「よい旅を！」－「比較」の表現
17	「よい旅を！」－「的」の用法 (2)
18	「よい旅を！」－二つの目的語をとる動詞
19	「よい旅を！」－目的語が主述句のとき
20	「自己紹介」①
21	「自己紹介」②
22	「自己紹介」③
23	「自己紹介」④
24	「決まり文句」①
25	「決まり文句」②
26	「決まり文句」③
27	「決まり文句」④
28	まとめと復習①
29	まとめと復習②
30	まとめと復習③

科目名		テーマ		
韓国語 I A		初級韓国語		
担当者名		学科		
山田 紀 浩		経済情報学科		

[授業の内容・到達目標]

韓国語は日本人にとって非常に学びやすい外国語である。初期の段階では、語順が同じであるために短い名詞文ならば、簡単な文体に単語をはめ込むだけで文章ができあがる。しかし日本語もその文字である“ひらがな”“カタカナ”が分からなければ、簡単な文章でも読み書きができない。そのために、この授業ではまず韓国語の文字であるハングルについて、その書き方・読み方を学習し、単語の読み書きを反復練習しながらハングル文字を完全にマスターすることにする。そしてその後韓国語の基礎文法を学び、簡単な自己紹介や会話ができるようになることを目的とする。この授業は基礎コースであるため複雑な内容には入らない。ただ、韓国語という語学は日本人にとって習得しやすい外国語であるということを理解し、今後の韓国語学習のためのモチベーションにしてほしい。そのために語学ばかりでなく韓国の情報は常に提供するようにする。またビデオや歌を通し韓国を身近に感じられるようにする。

この授業の到達目標は、韓国語の文字であるハングルをマスターすることはもちろんであるが、文法的には名詞文の肯定、疑問、否定形の基本をしっかりと理解することである。

[授業方法]

教科書にそった授業を行うために教科書が必ず持参すること。
 事前に教科書の単語学習をし、事後には授業で学んだ文型の練習をすること。
 韓国語に触れる目的でビデオや歌を鑑賞することもある。

[テキスト]

[参考文献]

オムジョンミ「アンニョンハングンマル」(朝日出版社)	長谷川由起子「コミュニケーション韓国語」(白帝社) 油谷幸利・南相瓔「総合韓国語 1」(白帝社) 油谷幸利・南相瓔「総合韓国語 2」(白帝社)
----------------------------	---

[関連科目(※1) ・ 履修上の注意 ・ その他]

※1=つながりのある科目

[関連科目] 韓国語 I B
 [履修上の注意] ノートは必ず執ること。
 [その他]

[授業計画]

実施回	内 容
1	イントラダクション ハングル文字の子音と母音
2	イントラダクション ハングル文字の子音と母音
3	ハングル文字の発音 平音、激音、濃音について
4	ハングル文字の発音 平音、激音、濃音について
5	複合母音について パッチムについて
6	複合母音について パッチムについて
7	ハングルに慣れる ハングルを使ってのいろいろな標記練習

8	ハンゲルに慣れる ハンゲルを使つてのいろいろな標記練習
9	簡単なあいさつことば 決まり文句
10	簡単なあいさつことば 決まり文句
11	～は～です。の文 簡単な自己紹介
12	～は～です。の文 簡単な自己紹介
13	～は～です。 うちとけた表現とかしこまった表現
14	～は～です。 うちとけた表現とかしこまった表現
15	家族の単語 簡単な家族紹介
16	家族の単語 簡単な家族紹介
17	～は～ですか。 疑問文のうちとけた表現とかしこまった表現
18	～は～ですか。 疑問文のうちとけた表現とかしこまった表現
19	韓国語での“こ、そ、あ、ど”言葉 身の回りの単語
20	韓国語での“こ、そ、あ、ど”言葉 身の回りの単語
21	～の、～のもの、～も ～だ (ぞんざいな文章)
22	～の、～のもの、～も ～だ (ぞんざいな文章)
23	名詞の否定文 否定文のかしこまった表現とうちとけた表現
24	名詞の否定文 否定文のかしこまった表現とうちとけた表現
25	漢語数詞について 漢語数詞を使つての練習
26	漢語数詞について 漢語数詞を使つての練習
27	固有数字について 固有数詞を使つての練習
28	固有数字について 固有数詞を使つての練習
29	春学期学習内容の総復習
30	春学期学習内容の総復習

科目名		テーマ		
韓国語 I B		初級韓国語		
担当者名			学科	
山田 紀 浩			経済情報学科	

[授業の内容・到達目標]

韓国語 I A を履修した学生が履修する科目である。韓国語は日本人にとって非常に学びやすい外国語である。語順が同じであるため、短い名詞文であるならば、簡単な文体に単語をはめ込むだけでできあがる。しかし日本語もその文字である“ひらがな”“カタカナ”が分からなければ、簡単な文章でも読み書きができない。そのために韓国語 I A の授業では、まず韓国語の文字であるハングルについて、その書き方・読み方について学習し、単語の読み書きを反復練習しながらハングル文字を完全にマスターすることとし、そしてその後韓国語の基礎文法を学び、簡単な自己紹介や会話ができるようになることを目的とした。その基礎コースを履修した学生が、この韓国語 I B の授業においては、初級レベルの韓国語をマスターすることを目的とする。文法的に韓国語 I A では名詞文の肯定、疑問、否定形を学習した。韓国語 I B においては動詞・形容詞の肯定、疑問、否定形を学習する。韓国語と日本語は語順は同じであるが、動詞と形容詞の活用がことなる。特にこの部分を混乱しないよう履修してほしい。また語学以外にも、ビデオや歌を通し韓国を身近に感じられるようにし、韓国を身近に感じられるようにする。

この授業の到達目標は、韓国語のレベルを基礎か初級レベルに挙げ、文法的には特に動詞・形容詞文の肯定、疑問、否定形のかしこまった表現と打ち解けた表現をしっかりと理解することである。

[授業方法]

教科書にそった授業を行うために教科書が必ず持参すること。
 事前に教科書の単語を学習し、事後には授業で学んだ文型の練習をすること。
 韓国語に触れる目的でビデオや歌を鑑賞することもある。

[テキスト]

[参考文献]

オムジョンミ「アンニョンハングンマル」(朝日出版社)	長谷川由起子「コミュニケーション韓国語」(白帝社) 油谷幸利・南相瓔「総合韓国語 1」(白帝社) 油谷幸利・南相瓔「総合韓国語 2」(白帝社)
----------------------------	---

[関連科目(※1) ・ 履修上の注意 ・ その他]

※1=つながりのある科目

[関連科目] 韓国語 I A
 [履修上の注意] ノートは必ず執ること。
 [その他]

[授業計画]

実施回	内 容
1	イントラダクション 春学期内容名詞文の復習
2	イントラダクション 春学期内容名詞文の復習
3	名詞文章の復習 漢語数詞並びに固有数詞の復習
4	名詞文章の復習 漢語数詞並びに固有数詞の復習
5	数え方の単位について ～をください。

6	数え方の単位について ～をください。
7	～と ～と 会話練習 (市場等)
8	～と ～と 会話練習 (市場等)
9	～年～月～日～曜日 年齢の表現
10	～年～月～日～曜日 年齢の表現
11	時計の読み方 ～から～まで
12	時計の読み方 ～から～まで
13	存在詞の肯定文、疑問文 存在詞のうちとけた表現とかしこまった表現
14	存在詞の肯定文、疑問文 存在詞のうちとけた表現とかしこまった表現
15	韓国語の歌やビデオを通し、韓国文化ならびに韓国語に触れてみる。
16	韓国語の歌やビデオを通し、韓国文化ならびに韓国語に触れてみる。
17	動詞文について 肯定文と疑問文
18	動詞文について 肯定文と疑問文
19	陽母音と陰母音とその活用について その練習
20	陽母音と陰母音とその活用について その練習
21	動詞文のうちとけた表現の縮約形について その練習
22	動詞文のうちとけた表現の縮約形について その練習
23	動詞文のうちとけた表現の変則活用について その練習
24	動詞文のうちとけた表現の変則活用について その練習
25	～を、～で、～ます。 そして、～たち、～と一緒に、～兼の表現
26	～を、～で、～ます。 そして、～たち、～と一緒に、～兼の表現
27	動詞、形容詞を使ったいろいろな表現
28	動詞、形容詞を使ったいろいろな表現
29	秋学期学習内容の総復習
30	秋学期学習内容の総復習

科目名		テーマ		
経営情報		経営情報システムの発展、製造・流通・金融・行政における情報システム、戦略情報システム、エンタープライズ・アーキテクチャー、ITガバナンス、グローバル経営情報システム。		
担当者名		学科		
三重野 徹		経済情報学科		

[授業の内容・到達目標]

今日の経営情報システムはMISから始まりDSSという意思決定分野に進み、DWH、BIの発展に伴い大きく進歩した。これは情報技術の進展がなされてきた結果である。一方で多くの企業がグローバル化しており、こうした中での経営情報システムの構築は新たな局面を持ってきている。今日ではマネージメント・ダッシュボードと言われるトップ・マネージメント・システムから始まる経営管理システムと経営を支える実務管理業務でのシステムが使われており、旧来のシステムのあり方が変わってきている。これらに関して具体例を交えて理解してもらうことを講義では行なっていく。また、経営情報システムの構築方法についても学ぶ。このことによりいかに経営情報を鮮度も含めてタイムリーに得ることが大切かをわかってもらう。システムの構築方法ではシステム・エンジニアという職種が、今日ではいくつもの職種になっており、この役割を理解することでシステム構築プロジェクトの具体的なあり方がわかるようになる。

到達目標として経営情報とは何かを答えられる。経営情報システムの変遷と情報技術の進展を説明できるようになる。経営情報システムの構築方法を理解して、今後のあり方を説明できる。具体的な企業での例を基に進めるので身近に感じることができると思います。

[授業方法]

事前学習として 配布プリント、参考書を熟読すること。
講義を行なう。能動的な参加を求める。
事後学習方法としてテキストプリントと講義で出てきたキーワードを基に、インターネット、図書館での新聞、経済誌、コンピュータ関連誌などを利用して知識を拡充し、レポートに反映してもらうのでノートを作成すること。

[テキスト]

テキストはプリントしたものを適時、渡します。

[参考文献]

- ・経営情報論 遠山 暁、村田 潔、岸 眞理子 [有斐閣]
- ・経営情報論 岸川 典昭、中村雅章 [中央経済社]
- ・経営情報システム J.エメリー著、宮川監訳、佐藤他訳、「TBSブリタニカ」
- ・戦略的情報システム C.ワイズマン著、土屋他訳、「ダイヤモンド社」

[関連科目(※1) ・ 履修上の注意 ・ その他]

※1=つながりのある科目

[関連科目]
[履修上の注意]
授業運営原則：携帯電話の使用、私語、授業中の教室出入を禁止。
講義で紹介した内容に関して 参考書を読んで理解を深めること。
[その他]

[授 業 計 画]

実施回	内 容
1	経営情報とは何か
2	情報システムの発展と課題点
3	MIS、DSS、EUC
4	DWH、BI、ビッグ・データ
5	クラウド・コンピューティング
6	経営管理と実務管理における支援システム グローバルの視点も含めて
7	情報技術と企業変革
8	製造業における情報システム
9	流通業における情報システム
10	金融業における情報システム
11	行政における情報システム
12	戦略的情報システム
13	エンタープライズ・アーキテクチャー
14	I Tガバナンス
15	まとめ、期末レポート作成・提出

科目名		テーマ		
経営史		近代企業経営における競争と革新		
担当者名			学科	
皆川 國生			経済情報学科	

[授業の内容・到達目標]

産業革命以降、企業活動のグローバルな展開に至るプロセスを企業家精神・意思決定・発明と充用などのキーワードを用いて概説します。資本主義経済の特徴を踏まえ、その担い手としての企業家の不断の輩出、企業の発生が何故可能となるのか、企業成長や企業連関・企業間競争のなかでどのような経営戦略がとられ、また企業形態や会社組織に関してどのような変革がもたらされたのか、リーディングセクターやリーディングカンパニーの変遷、企業活動の社会的制度的条件・インフラ整備の在りようなど、経済史と密接な関連をもつ経営史の特徴をイギリス・アメリカ・日本の代表的な企業をとりあげながら説明します。

この講義を通じて、ヒトではない会社がヒトと同じように権利義務の主体となり、あたかもヒトのごとく意思決定を行い、ヒトのごとく競争し、あるものは勝ち残って資産を増やし、あるものは敗れてヒトのごとく寿命を終える、なぜこのようなことが起こるのか、それは何時から普通に見られるようになったのか等々が理解できるはずです。

経済学や経営学の基礎的な知識の習得をも織り込みながら、会社の社会的役割、会社は誰のものか、会社はどこから来てどこへ行くのかを共に考えます。

[授業方法]

講義形式。

毎回の授業予定に対応するテキストの箇所を必ず事前に読んで、授業に出席するようにして下さい。

受講生の皆さんには起業家の立場であれこれを考えてもらいます。

[テキスト]

安倍悦生『経営史』日経文庫、2002年。

[参考文献]

ハウンシェル（和田一夫他訳）『アメリカン・システムから大量生産へ』名古屋大学出版会、1998年。米川伸一編『経営史』有斐閣双書、1977年。安倍悦生他編『ケースブック アメリカ経営史』有斐閣、2002年。宇田川勝・佐々木聡・四宮正親『失敗と再生の経営史』有斐閣、2005年。藤本隆宏『能力構築競争』中公新書、2003年。

[関連科目(※1) ・ 履修上の注意 ・ その他]

※1=つながりのある科目

[関連科目]

[履修上の注意]

[その他]

[授 業 計 画]

実施回	内 容
1	経済史・経営史・企業者史——ガイダンス：経営史の誕生と発展
2	経営史における基礎的概念
3	資本主義以前の経営
4	産業革命と工場制度の成立
5	産業革命と工場制度の成立（つづき）
6	会社制度の発達
7	アメリカにおけるビッグビジネスの成立
8	企業結合と独占禁止——ロックフェラーの戦い
9	多角化と事業部制——デュポンの革新
10	フォード・システム——大量生産体制の成立
11	フォードとGM——競争の戦略
12	フランチャイズ・システム——コークとマック
13	IBMの挑戦——IT産業の展開
14	トヨタ・システム——KAIZEN・KANBAN
15	まとめ

科目名		テーマ		
情報メディア		情報通信メディアの歴史的変遷と現在を学び、情報社会の実態とメディアの役割を考える		
担当者名			学科	
福迫昌之			経済情報学科	

[授業の内容・到達目標]

[授業の内容]

現在の高度情報社会において、情報通信メディアの存在は不可欠なものとなり、その拡大、多様化は、単なる技術の側面に留まらず、政治、経済を含む世界全体の変化を引き起こしている。ただし、近年の ICT（情報コミュニケーション技術）は日進月歩で、その技術発達に対し社会情勢が追いかけているのが実情である。そのため、情報化による様々な社会的問題や社会変容に対する、反省や批判的な検討を行うことが困難になっている。そこで、本講義では、情報通信メディアと情報社会の関連を理解するために、通信メディアと放送メディアの社会的機能と役割を中心に、具体的事例に沿って解説する。

講義では、可能な限りアップ・トゥ・デートな動きに触れながら、情報メディアの生成と情報社会の成立の経緯を知ることによって、基本的な情報通信メディアの社会的位置付けや役割、機能を知ると同時に、新しいメディアを批判的に検討することが可能となる。

[到達目標]

現代社会の基幹的メディアである通信メディアは電話、放送メディアはテレビを中心に取り上げ、情報通信メディアと情報社会の発達の経緯を理解し、その将来像まで考えることができるようになることを目標とする。

併せて本講義を通して、将来の経済人として、現在の情報社会の背景と情報通信メディアの機能と役割を学ぶと同時に、生活者として現在のメディア状況をどう捉え、活用すべきかを考えることができるようにする。

[授業方法]

講義は板書を多用するので、毎回出席し、ノートをきちんと取ること。講義の話聞き、自分でノートに書き取ることで、講義内容を理解し、整理することが出来る。丁寧に説明するので、ノートを取るだけでなく、その意味する内容を考えながら聞くようにすることが必要である。ビデオ等必要な教材も適宜使用する。講義内容は系統立っているので、毎回出席することが肝心となる。試験前にノートを見直し、復習すること。講義内容に関連して、事前・事後学習のために宿題として適宜レポートを課すことがある。

とくに受講者多数の要望もあり、講義に集中できる環境を維持するために、原則として 20 分以上の遅刻・移動は認めない（施錠などの措置を取ることもある）。出席は毎回とるが、出席を兼ねてノートチェックおよび時間内レポートを適宜実施する。

[テキスト]

[参考文献]

総務省編『情報通信白書』
三野裕之『デジタルメディア概論』ムイスリ出版、2003年。
田村紀雄・白水繁彦編著『現代地域メディア論』、2007年。

[関連科目(※1) ・ 履修上の注意 ・ その他]

※1=つながりのある科目

[関連科目] 「情報社会と倫理」「コミュニケーション」

[履修上の注意]

[その他]

質問等は、講義後等の時間を利用して、積極的に行って下さい。E-mail でも受け付けます (fukusaku@tonichi-kokusai-u.ac.jp)。

[授 業 計 画]

実施回	内 容
1	イントロダクション 情報通信メディアの歴史について、現在の情報通信メディアの基礎となっている電話というメディアの生成から考える。
2	テーマ：情報社会の生成（通信メディア1） 電信の誕生と変遷をたどり、通信メディアの特徴および「コモンキャリア」の概念を掴む。
3	テーマ：情報社会の生成（通信メディア2） 電話の誕生と電信から電話のメディア変化について、メディア特性と社会環境との関連から考える。
4	テーマ：情報社会の生成（通信メディア3） 通信メディアの形成を米国における変遷を例に、「ユニバーサル・サービス」の観点から、その実態と問題点を考える。
5	テーマ：情報社会の生成（通信メディア4） 米国における通信産業の大転換について学び、日本および世界の情報通信産業の基礎について考える。
6	テーマ：情報社会の生成（通信メディア5） 日本における通信メディアの形成を、明治期～電電公社～NTTへの歴史的変遷を軸に、その特徴と変容の背景について考える。
7	テーマ：情報社会の発展（放送メディア1） 米国における放送の誕生の経緯とその通信と異なる特徴について、2つの基本的問題とその解決法から理解する。
8	テーマ：情報社会の発展（放送メディア2） 日本における放送の概要と歴史的変遷を概観し、放送メディアの形成と社会変動について考える。
9	テーマ：情報社会の発展（放送メディア3） 放送法を中心に、マス・コミュニケーションとしての放送の社会的役割や特徴を、とくに通信との相違に着目して考える。
10	テーマ：情報社会の発展（放送メディア4） 米国の放送メディアや欧州の放送制度を例に、その特徴や日本との相違を明らかにし、今後の放送メディアの課題を考える。
11	テーマ：情報社会の展開（放送と通信の融合1） 「放送と通信の融合」をサービスの多様化という点から、地上デジタル放送などを例に、その理論とそれによって引き起こされる社会的問題について考える。
12	テーマ：情報社会の展開（放送と通信の融合2） 米国の「情報スーパーハイウェイ構想」を例に、情報化の進展による通信ネットワークの拡大とインターネットの生成について考える。
13	テーマ：情報社会の展開（インターネット） インターネット＝コンピュータ・ネットワークの発展によって、社会にどのような影響や問題が生じてきているのか、という観点から考える。
14	テーマ：情報社会の展開（情報メディアとグローバル・スタンダード） 昨今経済のグローバル化とともに、各分野で課題となっているグローバル・スタンダードについて、特に情報メディアにおける重要性とその実態について考える。
15	テーマ：情報社会と情報通信メディアの今後 情報通信メディアの変遷と情報社会の成立について整理し、今後の課題と方向性について考える。

科目名		テーマ		
情報社会と倫理		情報社会の特徴、情報化が社会に与える影響および情報モラルについて学ぶ		
担当者名		学科		
福迫昌之		経済情報学科		

[授業の内容・到達目標]

[授業内容]

情報通信ネットワーク社会の進展はIT、マルチメディア技術の発達と普及によるものであり、近年インターネットの電子メールやワールドワイドウェブ、各種の携帯情報端末や携帯通信機器、多チャンネルテレビといったデジタルメディアが、社会のあらゆる場面に頻繁に登場するようになった。私達の生活のあらゆる分野にITが関わってきており、将来ITや情報関連産業に直接携わる者はとくに、そうでない者も、情報ネットワークに関連して必要な技能、知識、素養は、技術面に限定されるべきではなく、社会との関係を常に意識しながら仕事を進めていかなければならない。本講義では、ICTの基本的理論、情報化と社会の動向、ICT利用の現状、情報モラルさらに知的財産など専門的課題に関して、基本的に理解しておくべき事項について、具体例を挙げながら、説明する。講義内容は情報社会の理解のための基本理論が中心なので、より具体的な事項については、他の講義や演習で得た技術的知識と関連させ、さらに理解を深めて欲しい。

[到達目標]

情報社会の基本用語について理解する。また、経済・社会という観点から情報社会の特質と問題について理解することを目標とする。

情報社会における倫理的な問題、ネット犯罪等についてその背景と課題について理解できるようになる。

[授業方法]

講義には毎回出席し、板書についてはノートをきちんと取ること。講義の内容は多岐に渡るが、丁寧に説明するので、ノートを取るだけでなく、その意味する内容を考えながら聞くようにすることが必要である。ビデオ等必要な教材も適宜使用する。講義内容は系統立っているため、毎回出席することが肝心となる。試験前にノートを見直し、復習すること。講義内容に関連して、事前・事後学習のために宿題として適宜レポートを課すことがある。

とくに受講者多数の要望もあり、講義に集中できる環境を維持するために、原則として20分以上の遅刻・移動は認めない(施錠などの措置を取ることもある)。出席は毎回とるが、出席を兼ねてノートチェックおよび時間内レポートを適宜実施する。

[テキスト]

[参考文献]

情報教育学研究会情報倫理教育研究グループ『インターネット社会を生きるための情報倫理』実教出版、2013年。
三野裕之『デジタルメディア概論』ムイスリ出版、2003年
梅棹忠夫『情報の文明学』中公文庫、1999年。

[関連科目(※1) ・ 履修上の注意 ・ その他]

※1=つながりのある科目

[関連科目]「情報メディア」「コミュニケーション」

[履修上の注意]

[その他]

質問等は、講義終了後等の時間を利用して、積極的に行って下さい。E-mailでも受け付けます(fukusaku@tonichi-kokusai-u.ac.jp)。

[授 業 計 画]

実施回	内 容
1	イントロダクション 情報化、情報ネットワーク、ICT についての基本的な認識、講義の進め方について。
2	テーマ：情報化と社会の動向 1 ネットワーク社会について
3	テーマ：情報化と社会の動向 2 情報ネットワークと市民社会の変容について
4	テーマ：情報化と社会の動向 3 インターネットの歴史と特徴について
5	テーマ：情報化と社会の動向 4 情報社会論の系譜について（梅棹忠夫など）
6	テーマ：情報化と社会の動向 5 情報社会の文明論的特徴について（ダニエル・ベルなど）
7	テーマ：情報化と社会の動向 6 情報ネットワークインフラと、産業社会の展開について
8	テーマ：情報化と社会の動向 7 メディアリテラシーとネチケットについて
9	テーマ：IT 利用の現状 1 企業活動と情報ネットワークについて
10	テーマ：IT 利用の現状 2 市民生活におけるマルチメディア利用の実態について
11	テーマ：情報モラル 1 情報化の進展に伴う問題や犯罪の現状について
12	テーマ：情報モラル 2 情報ネットワークと知的財産について
13	テーマ：情報モラル 3 知的所有権をめぐる現代的課題について
14	テーマ：情報モラル 4 情報ネットワークと社会倫理（表現の自由）について
15	テーマ：情報社会の課題 ICT の最新状況と今後の課題について

科目名		テーマ		
復興学		東日本大震災被災地にある大学において、震災からの復興をどのように行うかについて実践的に考える		
担当者名		学科		
福迫昌之・北見正伸・ 本多創史・山田紀浩・ 坂田勝彦		経済情報学科		

[授業の内容・到達目標]

[授業の内容]

この講義では、東日本大震災の直接の被災地であり、福島第一原子力発電所の最直近地域であるいわき市に立地する大学として、いかに震災復興を成し遂げていくか、そのために何を知り、考えるべきか、自身がこの震災にいかに向き合い、何をすべきか、などについて、具体的かつ実践的な内容を通して学び、考えます。

まず、復興とは何かというテーマについて、主に社会科学の視点から自らが問題意識を持ち、震災に向き合うための基礎的な知識と態度を身に着けるために、放射能に関する知識や地域社会の背景を学びます。さらに災害復興および地域の置かれた状況を具体的に把握し、復興のために必要なことを考えます。全体を通して、学生自らが問題意識を持って授業に臨み、主体的に学生同士がコミュニケーションを図り、課題に向き合いながら考えていくことを重視します。

[到達目標]

東日本大震災の影響と地域の現状およびその背景を認識し、地域そして日本社会の復興のために何が必要かについて、自ら考え、行動することができる力を身に着ける。

[授業方法]

授業は本学の専任教員5名によるオムニバス形式（原則として3回で1クール：3回×5名＝15回）で行い、テーマは教員ごとに異なるが、いずれも課題解決型授業となるので、履修者の積極的な参加が求められます。

各教員の指示に従い、事前調査、ディスカッションやレポート作成等、各回で成果が求められます。受講にあたって予め必要な知識等を調査したり、レポートを宿題として課すこともあるので、その際は必ず履行してください。一部グループによる作業や実習を行うこともあります。

[テキスト]

テキストは使用しません。
資料等は適宜配布します。

[参考文献]

東日本国際大学東洋思想研究所『いわきから問う東日本大震災』昌平齋出版会、2013年。
『3.11からの挑戦』財界21、2013年。
松岡俊二・いわきおてんと SUN 企業組合編『フクシマから日本の未来を創る』早稲田大学出版部、2013年。

[関連科目(※1) ・ 履修上の注意 ・ その他]

※1=つながりのある科目

[関連科目]

[履修上の注意]

各クール・各回の評価の合計によって最終評価となるので、出席および積極的参加が必須となります。グループ作業などを行うこともあるので、他の学生に迷惑をかけないよう毎回出席を履行してください。

[その他]

[授 業 計 画]

実施回	内 容	担 当
1	イントロダクション ・「復興学」で何を学ぶか？（授業内容、授業の進め方等）	福迫
2	「原発事故放射能汚染からの復興と心のケア」 1	北見
3	「原発事故放射能汚染からの復興と心のケア」 2	北見
4	「原発事故放射能汚染からの復興と心のケア」 3	北見
5	①吉野せい「はなをたらしした神」を輪読する。	本多
6	②いわき民報を中心に、映画化について考える。	本多
7	③原発事故は、近代そのものに疑問を突きつけた。近代を見直し、近代を超える「ふっこう」を模索する。	本多
8	「災害復興のメディア論」 1 ・ 3・11を巡る言説の構図とその問題	坂田
9	「災害復興のメディア論」 2 ・ ローカルなメディア実践の可能性と課題	坂田
10	「災害復興のメディア論」 3 ・ 復興を巡る課題について、阪神淡路大震災の教訓から学ぶ	坂田
11	・ いわきが直面する様々な問題の中でも風評被害について考える。	山田
12	・ 単なる知識ではなく、いわきの現実について調べ考える。	山田
13	・ 風評被害克服のため、いわきに暮らす学生として何ができるのか	山田
14	福島県・いわき市における復興の現状と課題	福迫
15	まとめ：復興とは何か？復興のために何ができるのか？	福迫

科目名		テーマ		
人間力の育成		「生きる力」を身につける		
担当者名		学科		
先崎 彰容		経済情報学科		

[授業の内容・到達目標]

東日本大震災以降、福島県は地震・風評被害・原発問題の「三重苦」を強いられています。現在でも、その苦しみに変わりはありません。被災県の浜通りの大学生として、では私たちには何が求められているのでしょうか。

- ① 具体的なインフラ整備や地域復興へむけた様々な課題を解決していくことは大事です。
- ② しかし、何よりもまず、求められているのは、こういった「困難に対応する力強さ」を若い学生諸君がもつことです。震災は一つの例にすぎません。
- ③ 「様々な困難」に対して、周囲の情報に惑わされたり、混乱に陥るのではなく、自分で考え、自分で判断し、自分で決定していく、そうした強い人間がいま、求められています。

[授業の内容]

具体的には、全 15 回の授業のうち、4回を外部講師をお招きし、土曜日の3時間目に講演会および話し合いの機会をもちます（通常授業と日時が異なる点に注意）。外部講師の先生方が来るのに先立ち、

- ① 事前に先生の著作を読み、現代社会の問題点を理解する。
- ② 事後に先生の講演を復習し、理解を深める。

[到達目標]

事前に先生方の考えを予習し、その内容を理解することで、積極的な発言をできることを目標とする。そして最終的には、先生方との交流を通じて、「人間力の育成」を目指す。

[授業方法]

毎回配布する資料等に、あらかじめ目を通しておくこと。

[テキスト]

各回に必要なテキスト等については、指示またはコピーして配布する。

[参考文献]

- ① 先崎彰容『ナショナリズムの復権』（ちくま新書）
- ② 佐伯啓思『大転換』（NTT 出版）
- ③ 佐伯啓思『現代民主主義の病理』（NHK 出版）

[関連科目(※1) ・ 履修上の注意 ・ その他]

※1=つながりのある科目

[関連科目] 復興学

[履修上の注意]

この授業は、積極的な参加型の授業です。積極的な予習と復習、そして何よりも自分自身で考えることを求めます。なお、各先生方の講演会の回は、主に土曜日に行われます。詳細は授業にて、指示をいたします。欠席者は事前に申請すること。

[その他] なし

[授 業 計 画]

実施回	内 容
1	イントロダクション① 本講座の目的——授業の進め方と評価方法の説明
2	イントロダクション② 「人間力の育成」とは、何か——震災と福島県
3	第一回講演の先生の著作を読む①
4	第一回講演の先生の著作を読む②
5	第一回「人間力の育成」講演会
6	第二回講演の先生の著作を読む①
7	第二回講演の先生の著作を読む②
8	第二回「人間力の育成」講演会
9	第三回講演の先生の著作を読む①
10	第三回講演の先生の著作を読む②
11	第三回「人間力の育成」講演会
12	第四回講演の先生の著作を読む①
13	第四回講演の先生の著作を読む②
14	第四回「人間力の育成」講演会
15	「人間力育成」講座のまとめ

【MEMO】

V 福 祉 環 境 学 部

V 福祉環境学部「市民開放授業」科目一覧

No.	授 業 科 目 名	担当教員名	定員	開講期・曜日・時限
1	社会福祉の基礎	佐々木 達雄	15 名	秋学期・月曜 5 限
2	権利擁護と成年後見制度	本多 創史	15 名	春学期・月曜 5 限
3	福祉環境論	宮本 文雄 今野 久寿 菊池 義昭	15 名	春学期・木曜 5 限
4	生命倫理学 I	坂田 勝彦	15 名	春学期・水曜 1 限
5	生命倫理学 II	坂田 勝彦	15 名	秋学期・水曜 1 限

福祉環境学部

シラバス（科目概要）

科目名		テーマ		
社会福祉の基礎		社会福祉に関する基礎知識を習得することを目的とする		
担当者名		学科		
佐々木 達雄		社会福祉		

[授業の内容・到達目標]

[授業の内容]

この講義は、現代の社会福祉の制度や課題、基礎用語などをわかりやすく説明し、正確な概念把握を目指すものである。現代の社会福祉について言及する場合、どうしても現代の政治システムや経済システムについても触れなければならない。したがって、まずこれらの領域について概説を行い、それらと関連させながら社会福祉の基礎的な事項について説明する。

福祉に関する制度や仕事などについて理解することを目指すため、こまめに小テストを行い、知識の定着度を確認しながら進める。

[到達目標]

- ・大学生としての常識的な知識を身につける。
- ・「現代社会と福祉」の講義内容を、正確に理解できるように、基礎用語をきちんと把握する。

[授業方法]

毎回レジュメを配布します。それに基づいて講義を進めていきます。なお、板書の量が多くなりますが、それは書くことによって学生諸君の知識の定着を図るためです。専用のノートを準備してください。

事前・事後学習として、前回の講義の復習を挙げておきます。

[テキスト]

指定なし

[参考文献]

山縣文治他編『よくわかる社会福祉』ミネルヴァ書房
『社会福祉辞典』大月書店
斎藤茂男『生命かがやく日のために』講談社α文庫

[関連科目(※1) ・履修上の注意 ・ その他]

※1=つながりのある科目

[関連科目]

[履修上の注意]

[その他]

[授 業 計 画]

実施回	内 容
1	社会福祉と人権
2	社会福祉とジェンダー 1
3	社会福祉とジェンダー 2
4	少子高齢社会と福祉
5	現代家族の諸問題
6	歴史：福祉国家の登場
7	歴史：福祉改革の登場
8	社会福祉の法律
9	社会福祉と行政（国家）
10	社会福祉と行政（地方）
11	社会福祉と財政
12	社会福祉の援助と方法 1
13	社会福祉の援助と方法 2
14	これからの社会福祉の課題
15	まとめ

科目名		テーマ		
権利擁護と成年後見制度		成年後見制度の概要を理解し、その問題点を知る。		
担当者名		学科		
本多 創史		社会福祉		

[授業の内容・到達目標]

[授業の内容]

本講義は主に二つの柱から構成されている。

第一は、成年後見制度である。制度の概要、利用方法、また後見を受けることになって以後の問題などを丁寧に論じてゆく。とりわけ認知症をもつ高齢者、知的障害者、精神障害者への支援を中心に述べる予定である。

第二は、日常生活自立支援事業である。成年後見制度との相違を正確に理解することを目指す。また、関連諸機関や法律について触れ、その問題点を考察してみたい。

[到達目標]

- ・ 国家資格試験「権利擁護と成年後見制度」の問題を80%程度解くことのできる力を養成する。
- ・ 成年後見制度を利用したいという人に、制度の概要を正確に説明できる力をつける。

[授業方法]

成年後見制度については民法および諸関連法の解説をおこなう。その際、オリジナルプリントを配布する。日常生活自立支援制度については、おなじくオリジナルプリントと下記テキストの一部を用いて説明を行う。ともに講義形式で進める。

事前・事後学習として、それ以前の講義プリントの音読・理解を挙げておく。

[テキスト]

『19 権利擁護と成年後見制度』中央法規

[参考文献]

土屋葉『障害者家族を生きる』勁草書房
 上野千鶴子他『当事者主権』岩波新書
 法務省ホームページ
<http://www.moj.go.jp/MINJI/minji95.html>

[関連科目(※1) ・ 履修上の注意 ・ その他]

※1 = つながりのある科目

[関連科目]

[履修上の注意]

[その他]

[授 業 計 画]

実施回	内 容
1	課題と方法
2	日本国憲法の理解
3	民法の理解
4	親族法の理解
5	家庭裁判所の組織と成年後見制度
6	成年後見制度の概要
7	成年後見人、保佐人、補助人の相違について
8	日常生活自立支援事業の概要
9	社会福祉協議会と日常生活自立支援事業
10	成年後見制度に関わる組織と団体1 家裁、法務局、市町村
11	成年後見制度に関わる組織と団体2 弁護士、司法書士、社会福祉士
12	成年後見制度の実際の利用と手続き
13	成年後見制度と権利擁護活動1 認知症の高齢者への支援
14	成年後見制度と権利擁護2 知的障害者、精神障害者の支援の実際
15	まとめ

科目名		テーマ		
福祉環境論		福祉的サービスを必要とするすべての人の人間存在としての「ウェルビーイング (Well-being)」とは何か、そしてその実現のための福祉環境とは何かについて論じ、社会福祉及び精神保健福祉における「自立と共生」のための人間生活環境・バリアフリー環境を考究する。		
担当者名		学科		
宮本文雄・今野久寿 菊池義昭		社会福祉		

[授業の内容・到達目標]

<p>(オムニバス方式)</p> <p>(宮本)</p> <p>そもそも、ハンディキャップとは、その人とその人を取りまく環境との関数と考えられる。ハンディキャップは、「障害をもつ」その人が、他の市民が利用することが可能な社会のさまざまなシステムへのアクセスを妨げる文化的・情報的・生活空間的バリアーあるいは社会的・制度的バリアーそして人の心のバリアーに出くわす際に生ずるものである。本講義では、社会福祉の理念であるノーマライゼーションの歴史的展開とソーシャルインクルージョンのあるべき方向について論じ、さらには人間存在とウェルビーイングを視点とした人間生活環境の構築を「優生学」の歴史的展開と「心のバリアフリー」との関係で論じる。</p> <p>(今野)</p> <p>年少者、障害者、そして高齢者に優しい生活環境は、すべての人々に優しい生活環境である。人が人と共に生き、人が自然と共生し、「人間存在としてのウェルビーイング」の追求は、21世紀の大きな課題である。本講義は、「福祉まちづくり (Building Supportive Communities) の実践例に学び、地域福祉における福祉環境共生システムの理論と実際を講じる。</p> <p>(菊池)</p> <p>市場原理が優先する現代の先進諸国に共通の現象として、「精神的にイェルビーイング (Ill-being) の状態」におかれている人たちがあるいはその予備軍的人たちの増加が顕著となっている。心とからだのクライシスは社会的病理を反映しているともいえる。本講義では、精神的な Ill-being の出現の人的・社会文化的環境要因さらには自然的環境要因に目を向け、そのメカニズムと予防的な位置づけとしての福祉環境共生システムについて論じ、さらには精神障害者の社会復帰のためのコミュニティリソースの活用方策とその人を取りまく人間生活環境のあるべき形態と機能について精神医学的側面から論じる。</p> <p>(宮本)</p> <p>子どもの心とからだの問題は、その多くが両親との関係、家族関係そして友だち関係にその原因を求めることができる。「子どものウェルビーイング」は、すべての子どものなにもものにも代えることのできない権利であり、擁護されるべきもの (チャイルドアドボカシー) であり、地域・社会・国家はその実現の義務及び責任を負うものである。本講義では、子どもの心とからだの問題とそのメンタルケアとコーピング (対処方略) および福祉的援助に関して、家庭環境 (家族関係・家庭力) さらに社会的環境 (社会力) の問題と関連づけて児童の精神保健福祉的側面から講じる。</p> <p>到達目標は、今後、4年間で学び、修得する「福祉」の根本的で基礎的な考え方と知識・態度を学ぶ必要を理解するとともに、さらに深く自ら学習する基盤を身につける。</p>

[授業方法]

<p>授業は「オムニバス方式」をとり、プリント資料、パワーポイントなどを用いて講義する。質疑応答を大切にし、学生と共に考え、理解を深めあう授業を作りあげていきたい。</p> <p>準備学習については、授業の終わりに事前・事後学習の内容を指示する。</p>

[テキスト]

<p>必要な資料は、授業で配布する。</p>	<p>[参考文献]</p> <p>岩田正美『社会的排除』有斐閣、 イングスタッド・ホワイト『障害と文化』明石書店、 杉山登志郎『そだちの臨床』日本評論社</p>
------------------------	---

[関連科目]
[履修上の注意]
[その他]

[授 業 計 画]

実施回	内 容
1	人間生活福祉環境論を問う
2	人間存在としてのウェルビーイング (well-being) を考える
3	ノーマライゼーションとソーシャルインクルージョンを考える
4	心のバリアフリーを考えよう
5	年少者、障害者、高齢者に優しい福祉環境とは
6	安心して生活できるコミュニティとは
7	「福祉の町づくり」日本の実践例から学ぶ
8	「福祉の町づくり」外国の実践例から学ぶ
9	心身症：こころとからだのクライシス
10	うつ病—過労自殺
11	テクノストレス・燃えつき症候群
12	薬物乱用・依存
13	いじめ・不登校・ひきこもり等の問題とそれへの対応
14	児童虐待・家庭内暴力・薬物乱用等の問題とそれへの対応
15	障害児のための特別支援教育の現状と課題

科目名		テーマ		
生命倫理学Ⅰ		出生前診断と終末期ケアの現状と課題から、現代社会における生命／身体を巡る諸問題を考察する。		
担当者名		学科		
坂田 勝彦		社会福祉		

[授業の内容・到達目標]

【授業内容】

人間の誕生と死はこれまで、自然の営みの一環として普遍的なものと考えられてきた。しかし近年、医療技術の急激な進歩とともに、誕生についても死についてもその様相は大きく変化しており、私たちは現在、生と死を巡るイメージや倫理について改めて考え直す必要性に直面している。

そこで本講義では、脳死や臓器移植、尊厳死といった具体的な諸問題を通して、生命倫理の全般にわたる問題点について検討する。

【到達目標】

現在、医療・福祉の在り方がマスコミなどで取り上げられるとき、「患者（利用者）の自己決定」や「インフォームド・コンセント」の重要性が説かれる。無論、その背景には、医療・福祉における人権侵害やパターナリズムの問題があるが、本講義はさらに一步進んで、「自己決定」や「インフォームド・コンセント」といった概念が覆い隠してしまう生命／身体を巡るリアリティについて理解を深めていくことで、福祉専門職に不可欠な対人関係・人間存在への共感的な視座の習得を目標にしている。

[授業方法]

1. 本講義は、映像資料や文書資料を活用し、具体的なトピックスをもとにして授業を進めていく。その際、一人一人にあてて意見などを聞くこともあり、グループで話し合いそれぞれの意見をまとめて発表してもらう場合もある。医療・福祉について関心を持つとともに、生命／身体を巡る様々な問題を私たちが生きる社会のアクチュアルな問題として積極的に考えてくれることを期待したい。
2. (事前学習) 各回ごとに、次週の内容について告知し、テキスト・参考文献を活用した予習を行ってもらう。
3. (事後学習) 各回ごとに、テキスト・参考文献および配布資料をもとにした講義内容の復習を行ってもらう。

[テキスト]

必要な資料は、授業で配布する。

[参考文献]

1. 米本昌平ほか編 2000 『優生学と人間社会』講談社現代新書
2. 加藤秀一 2009 『〈個〉から始まる生命論』NHKブックス
3. 斎藤有紀子ほか編 2003 『母体保護法とわたしたち』明石書店

[関連科目(※1) ・ 履修上の注意 ・ その他]

※1=つながりのある科目

[関連科目] 生命倫理学Ⅱ

[履修上の注意]

[その他]

[授 業 計 画]

実施回	内 容
1	生命倫理とは何か?—現代社会における医療・福祉の諸問題を概観する
2	臓器移植が提起したもの(1)——身体を巡る現代社会の論理
3	臓器移植が提起したもの(2)——生命を巡る現代社会の倫理
4	「自己決定」という概念を巡って(1)——「インフォームド・コンセント」の歴史的背景
5	「自己決定」という概念を巡って(2)——その現状と課題
6	「自己決定」という概念を巡って(3)——「安楽死」と「尊厳死」
7	まとめ(I)
8	「共鳴する死」(1)——「死」と「死にゆくこと」の習俗
9	「共鳴する死」(2)——「死にゆく者の孤独」について
10	「死の医学」とは何か(1)——ある精神科医の闘病体験に見る「病者の眼」という言葉
11	「死の医学」とは何か(2)——ある精神科医の闘病体験に見る「生きた証」を残すという営み
12	「死の医学」とは何か(3)——ある精神科医の闘病体験に見る「看取る」という営みの意味
13	疾患(disease)と病い(illness)という視点—ハンセン病問題の事例から(1)
14	病いを生きる経験と文化—ハンセン病問題の事例から(2)
15	まとめ(II)

科目名		テーマ		
生命倫理学Ⅱ		出生前診断と終末期ケアの現状と課題から、現代社会における生命／身体を巡る諸問題を考察する。		
担当者名		学科		
坂田 勝彦		社会福祉		

[授業の内容・到達目標]

【授業内容】

人間の誕生と死はこれまで、自然の営みの一環として普遍的なものと考えられてきた。しかし近年、医療技術の急激な進歩とともに、誕生についても死についてもその様相は大きく変化しており、私たちは現在、生と死を巡るイメージや倫理について改めて考え直す必要性に直面している

そこで本講義では、脳死や臓器移植、尊厳死といった具体的な諸問題を通して、生命倫理の全般にわたる問題点について検討する。

【到達目標】

現在、医療・福祉の在り方がマスコミなどで取り上げられるとき、「患者（利用者）の自己決定」や「インフォームド・コンセント」の重要性が説かれる。無論、その背景には、医療・福祉における人権侵害やパターナリズムの問題があるが、本講義はさらに一步進んで、「自己決定」や「インフォームド・コンセント」といった概念が覆い隠してしまう生命／身体を巡るリアリティについて理解を深めていくことで、福祉専門職に不可欠な対人関係・人間存在への共感的な視座の習得を目標にしている。

[授業方法]

1. 本講義は、映像資料や文書資料を活用し、具体的なトピックスをもとにして授業を進めていく。その際、一人一人にあてて意見などを聞くこともあり、グループで話し合いそれぞれの意見をまとめて発表してもらう場合もある。医療・福祉について関心を持つとともに、生命／身体を巡る様々な問題を私たちが生きる社会のアクチュアルな問題として積極的に考えてくれることを期待したい。
2. (事前学習) 各回ごとに、次週の内容について告知し、テキスト・参考文献を活用した予習を行ってもらう。
3. (事後学習) 各回ごとに、テキスト・参考文献および配布資料をもとにした講義内容の復習を行ってもらう。

[テキスト]

必要な資料は、授業で配布する。

[参考文献]

1. 米本昌平ほか編 2000 『優生学と人間社会』講談社現代新書
2. 加藤秀一 2009 『〈個〉から始まる生命論』NHKブックス
3. 斎藤有紀子ほか編 2003 『母体保護法とわたしたち』明石書店

[関連科目(※1) ・ 履修上の注意 ・ その他]

※1=つながりのある科目

[関連科目] 生命倫理学Ⅰ

[履修上の注意]

[その他]

[授 業 計 画]

実 施 回	内 容
1	生命倫理とは何か？——「生と死」にまつわる現代社会の諸問題を概観する
2	病いを患う者とその傍らに寄り添う者の悲しみと痛み——小児がんの事例から（1）
3	病いを患うことと「病者」になること——小児がんの事例から（2）
4	死別の悲しみや痛みといかに向き合うか——小児がんの事例から（3）
5	「ホスピス」とは何か？（1）——その起源と展開について紹介する
6	「ホスピス」とは何か？（1）——「ホスピス」ムーブメントと「自己決定」
7	まとめ（I）
8	生命科学の展開とその問題（1）——代理出産にまつわる法制度・イメージの検討
9	生命科学の展開とその問題（2）——代理出産にまつわる臨床社会学
10	「生・権力」の系譜（1）——福祉国家と優生学の関係
11	「生・権力」の系譜（2）——「自己決定」という概念の歴史的検討
12	社会福祉と生命倫理（1）——ソーシャルワークとパターナリズム
13	社会福祉と生命倫理（2）——「利用者主体」という思想の由来とその現状
14	社会福祉と生命倫理（3）——「死ぬ」ことを容認するではなく、「生きる」ことを支える倫理として
15	まとめ（II）

東日本国際大学「市民開放授業」

受講生窓口:

東日本国際大学 学生支援センター

〒970-8023

いわき市平鎌田字寿金沢 37

TEL 0246-35-0405

fax 0246-35-0406

E-mail : gakusei@tonichi-kokusai-u.ac.jp